

令和5年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	1 学年進路意識啓発講演会	
期 日	令和5年7月7日（金）	
会 場	長岡高校 大体育館	
対 象	1 年生 322 名	
目 的	<p>学問と仕事との関わりについて知り、将来の自分像を探究することで、学校生活への取組みを豊かなものにする事を目的とする。</p>	
内 容	<p>長岡技術科学大学工学部准教授(生物機能工学専攻)の山本麻希先生を講師にお招きし、1 年生を対象に「夢を叶える生き方のヒント」という演題で進路意識啓発講演会を行いました。「どうして海鳥は長く深く潜れるのか?」と純粋な科学的疑問を抱き、生理生態学に研究の魅力を感じ始めていた博士課程1 年生の頃、第39次南極観測隊に同行するチャンスがあり、アデリーペンギンの心電図の計測調査を行う傍ら、厳しい南極の自然と向き合う中で「人間として大切なことは何か?」「自分は何のために研究をしているのか?」について深く考えた事。また、平成18年にツキノワグマが大量出没した際、新潟県では多くのツキノワグマが捕殺されたことに疑問を抱き、生態学者として野生動物と人間の共存を目標に掲げるようになった事。そして、野生動物と人間の共存を可能にする科学技術について研究しようと決意し、高校教員を辞めて再び研究者となった事など、人生の足跡についてエネルギー溢れる御講演をいただきました。</p>	
	 <p>野生動物管理工学研究室 ヒトと野生動物の共存を目指す 野生動物の保護管理に必要な工学技術の開発や生態情報調査を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆先端工学技術を生かした鳥獣対策についての要素技術の開発 ◆カワウの個体管理と被害対策に関する研究 ◆果敢に生息するオオミズナキドリ保全生物学的研究 	
	山本先生の研究	生徒は熱心に聞き入っていました
アンケート評価	<p>ご自身の体験を熱く語る山本先生の講演に多くの生徒が刺激を受けました。「常にポジティブシンキング。苦勞を乗り越えると人間は成長する。」「何の仕事に就くかではなく、その仕事に就いてどんなことをしたいのかが大切」という先生のお話を聞き、自己の生き方の指針にしようと決意したようです。</p>	
感想など	<p>〇今日の講演会を通して、私は自分が努力する意味と一人の人間としてどのように生きていくかを考える機会となりました。山本先生がおっしゃっていた「職業に就くことが自分のゴールではない。職業に就いて何を成し遂げるのかが大切である。」という言葉は、高校に入学することが一つのゴールとなってしまう私に響き、行動を</p>	

改めようと決意させていただきました。私の夢は、将来社会に出て人々を笑顔にすることであり、その過程としてこの高校に入学したのだと再確認し、真剣に、日々の学習や部活動に努力していこうと思いました。また、他者との関わりの中で常に人を思いやることができる人は本当に優れた人であるという山本先生の考えに深く共感しました。私は人間は他者と協力して生きることが大切だと考えています。その中で一人ひとりが他者を思いやり、誰かのためになることを行うことが必要だと今回のお話を聞き思うようになり、自分の知見を広げることができました。

○『どの職業につくか』が大事ではなく、『その職業についてどんなことをするか』が一番大事」という山本先生の言葉が心に響きました。今までずっと、どんな職業につけばいいか、ということばかり考えていて、そこが自分の中でのゴールになっていたと改めて感じました。将来、自分がその職業をしている姿を想像し、どんな形で社会に貢献することができるかをよく考えて、今後の進路決定に生かしていきたいと思います。また、それを決定するだけでなく、しっかりと実行するために、苦しいときも自分に負けず、全力で努力していきたいと思います。